

令和7年度 学校経営の方針

小淵沢小学校

1 学校教育目標

「かしこく やさしく たくましい 小淵の子」

2 めざす児童像

「自尊感情の高い子」

- 進んで学び 自分を高めようとする子
- 思いやりの心を持ち 素直で明るい子
- 心身を鍛え ねばり強くやりぬく子

3 めざす教職員像

「見つめよう子どもの姿 整理しようつけたい力 工夫しようその手だて」

- 子どもや保護者の気持ちに寄り添う教職員
- 専門性を磨く教職員
- 組織的・協働的に取り組む教職員
- 率先垂範し、信頼される教職員

4 めざす学校像

「心のつながりを生み出す学校」

- 子どもが通いたい学校
- 保護者が通わせたい学校
- 地域が応援したい学校
- 教職員が働きたい学校

5 学校経営の基本

- (1)生きる力を支える確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた育成に努める
- (2)児童や地域の実態を考慮し、地域に根ざした特色ある教育「原っぱ教育」を推進する
- (3)家庭や地域との連携を大切にし、理解と協力を得つつ教育活動を推進する
- (4)教職員が児童理解と指導力の向上に努め、互いに高め合う集団づくりに取り組む

6 指導重点

(1) かしこく（確かな学び）

【主体的・対話的で深い学びの実現 「子ども主体の授業づくり」の推進】

- 授業の充実
 - ・小淵沢小スタンダードを意識し、個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実 [重点]
 - ・地域素材である「人・もの・こと」の活用に努める
- 基礎的・基本的な知識及び技能の習得
 - ・学びを実感する授業をつくる [最重点]
 - ・授業中発言が少ない児童を支援する等1人1台端末等のICTを効果的に活用した授業の工夫に努める [重点]
- 思考力・判断力・表現力等を育む言語活動の充実
 - ・読む、聞く、書く、話す力を高める指導の工夫に努める
 - ・読書指導の充実や図書館利用の推進に努める
- 家庭学習の充実
 - ・一人一台端末の持ち帰りを活用し、授業と関連させた家庭学習の習慣化を図る

(2) やさしく（豊かな心）

【信頼関係やよりよい人間関係を育てる土台となる学級経営の充実】

- 心の土壤づくり
 - ・「やまなみ」を中心とした自己肯定感、自己有用感を高める取組に努める [最重点]
 - ・思いやりや命の大切さを重視した道徳教育と人権教育の推進に努める
 - ・体験活動の充実と共生の心の育成に努める
 - ・「きずな」（木曜日ロング昼休み）を縦割り活動や信頼関係の構築等に有効活用する

○よりよい社会生活を送るための基本的な生活習慣の確立

- ・心のこもった挨拶・返事、正しく温かみのある言葉づかいの奨励【最重点】
- ・気持ち良い生活場所づくり【無言清掃 履物を揃える】と心の居場所づくりに努める
- ・いじめや不登校の未然防止と初期対応、SOSの出し方に関する教育に取り組む
- ・時間を自己管理できる能力の育成に取り組む

(3) たくましく（健やかな体）

○健康の保持増進

- ・家庭における基本的生活習慣の大切さを啓発し、学校給食を中心とした食育を推進する
- ・健康に関する課題に対し、実態を踏まえ計画的・継続的な指導に努める
- ・自分の命は自分で守る安全教育の充実を図る【重点】

○体力・運動能力の向上

- ・計画的で調和のとれた体育授業の充実を図る
- ・年間を通した体力づくりに努める（体育員会による縄跳び集会の充実等）【最重点】

(4) 「原っぱ教育」（北杜市の学校教育）の推進

○原っぱ教育目標「不屈の精神と大志を持った人材の育成」

今年度のキーワード

- ・「北杜學」のすすめ（自然や地域資源を活かした活動）
- ・「命を大切にする教育」の推進（SOSの出し方に関する教育）
- ・「多様な学びの場」の活用促進（校内支援教室【ステップルーム】の有効活用）

7 基盤となる環境整備

(1) 安全安心な学校

- *実効性のある校内危機管理体制の確立と防犯・防災訓練の実施
- *敷地内の定期的な安全点検の実施
- *PTA地域安全部や見守りボランティアと連携した登下校時の安全確保
- *職員による地域巡回や定期的なスクールバス乗車や通学班点検の実施

(2) 地域に開かれた学校づくり

- *学年・学級PTA活動の重視（話し合い活動の充実）
- *学校評価（保護者アンケート・学校関係者評価）によるPDCAサイクルの確立
- *地域の持つ教育力（人的・物的資源等）の積極的な活用
- *コミュニティ・スクールを活用した地域との関わりや保幼小中連携の推進

(3) 多忙化改善に向け働き方改革の推進・協働体制の確立

- *諸会議の効果的な運営（焦点化・短時間化）
- *校務分掌組織の工夫、互いに「のりしろ」をもつ意識、85点でよしとする職員の意識改革
- *家庭や地域への積極的な情報発信（各種便り・HP等による説明と啓発）
- *学校評価（自己評価・保護者や児童アンケート）や行事反省等の効果的な活用

(4) 職員研修の充実

- *人事評価制度（目標設定や面談等）による教職員の資質・能力の向上と学校組織の活性化
- *OJTを取り入れた校内研究会や校内委員会等による学び合い
- *PDCAサイクルによる教育課程の編成
- *「すべての教職員が特別支援教育を標準装備に」を目指す研修の実施